



【ふじお まゆ さん】 富丘中3年  
●小学1年生のときに、父の勧めで卓球を始める。祖母も社会人のときに卓球の全国大会に出場しており、卓球の才能は折り紙つき。小学生のときにも、全国大会に出場した経験をもつ。

夢に向かって、ラケットを握り続ける毎日！

8 月に岐阜県で開催された全国中学校卓球大会（個人戦）。

市内の中学校から、ただ一人出場した藤尾さんは、昨年に続き、2年連続で全国大会出場を果たしました。

小学1年生から始めた卓球。今では、ラケットを握らない日が無いほど、卓球漬けの毎日を送っています。

「平日は学校が終わってから、4時間くらい、休日は一日10時間くらい練習しています。遊びに行く時間は、ほとんどありませんが、練習が嫌いになったことはありません」と話します。

昨年の全国大会では、卓球台を目の前にした瞬間から手が震えるほど緊張し、自分の卓球ができず、悔しい思いをしました。

富丘中卓球部では、ほかの部員の

指導役も務めている藤尾さん。

今年の4月から、卓球の強豪、駒大苫小牧高校の練習に参加し、打ち方や基本的な動き方を、何度も繰り返し練習してきました。「以前よりも回転の鋭い球が打てるようになりました。進学を希望している高校で練習ができるので、今まで以上に卓球が楽しくなりました」と話します。

今年の全国大会1回戦では、昨年負けた選手と同じ中学校の選手が相手。団体戦でも全国に出場している強敵でした。

「対戦相手が決まったとき、二度も同じ中学校の選手に負けたくないと思いましたが、全国大会で自分が勝つ姿を何度も繰り返しイメージしました」と落ち着いた口調で大会前の心境を話します。

「試合のイメージがあったので、冷

静な気持ちで対戦できました。新しい卓球台は、球が弾みにくいのですが、試合の中で上手く対応することができました」と藤尾さんは言います。

結果は「3-2」で接戦を見事に制しました。「勝ったと分かったとき、すごくホッとしました」と笑顔を見せる藤尾さん。

惜しくも3回戦進出とはなりませんでしたが「去年の雪辱を果たせたいと思います」と全国大会を振り返ります。

「学校の先生になって、卓球部の顧問になりたい。教え子を全国大会で優勝させたいです」と将来の夢を語る藤尾さん。

今日もラケットを握る藤尾さんは、夢に向かって真っ直ぐ前だけを見つめていました。

人のいる風景

SCENERY OF PEOPLE



MAYU  
FUJIO

藤尾

真結

さん